

平成23年度 事業評価（事業活動記録）

事業No. 238

政策体系	14	事業分類	ソフト事業	所管部局	福祉部 健康課
会計	一般会計	科目	3. 民生費 - 1. 社会福 - 4. 高齢者 現年		
事業名	介護支援事業				
細事業名	地域介護支援事業				
評価表作成者				市民福祉部 社会福祉課	勝山 万里恵

1. 事業の概要

社会福祉協議会が実施する小地域での見守りを中心としたネットワーク活動やふれあいサロン活動の支援、各種団体・サークルへの支援、ボランティア活動の振興等の事業に対して助成を行った。

2. 事業の目的と必要性

①施策で目指す目標との関連付け

地域福祉の仕組みを構築し、地域福祉の推進を図る。

②事業を実施する必要性

人口が急激に増加し市街化が進む地域では、とすれば近隣の住民同士のつながりが希薄になる傾向があり、普段からの見守りや声かけをはじめ、地域での親密な人間関係づくりやその拠点づくりが必要である。一方、高齢化が進む山間過疎地域では、人間関係は比較的親密であるものの、高齢化過疎化ゆえに住民同士の助け合いの必要性は高い。

住民自らによる小地域見守り活動やふれあいサロン活動を通じて、住民自らが福祉課題を克服する仕組みづくりや組織づくりを積極的に実施する必要がある。

3. 事業費の推移

		単位	平19決算	平20決算	平21決算	平22決算	平23予算	平24計画	平25計画
決算額または計画額		千円	7,700	8,880	9,976	9,976	11,055	11,055	11,055
うち一般職・嘱託職・臨時職の給与および共済費等		千円	0	0	0	0	0	0	0
財源内訳	使用料・手数料等	千円	0	0	0	55	150	0	0
	国・府支出金	千円	0	0	0	0	0	0	0
	地方債	千円	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	7,700	8,880	9,976	9,921	10,905	11,055	11,055
職員等の従事人員		人/年	—	0.20	0.05	0.12			
人件費		千円	—	1,577	384	930			
事業費総額		千円	—	10,457	10,360	10,906			

※事業費を要しない場合は「0」、事業を実施しない場合は「空白」で表示。

※千円未満を四捨五入し表示しているため、合計等が一致しない場合がある。

4. 主な事業費の内訳

地域福祉事業補助金 9,976,000円

5. 事業結果の概要

- ・小地域ネットワーク活動の推進
- ・ふれあいサロン活動への支援
- ・広報、啓発活動
- ・福祉教育支援
- ・各種団体、サークルへの支援
- ・ボランティア活動の支援

6. 活動の詳細

ふれあいサロン活動支援		
<ul style="list-style-type: none"> ・サロンの参加に対する助成 ・サロン立ち上げに対する助成 ・貸し出し物品等の支援 ・出前講座 ・サロン協力者交流会、講習会の開催 	通年	<p>新たに子育てサロン、障がい者のスポーツを通じたサロン等が立ち上がった。サロンへの参加者も増加傾向にある。</p> <p>サロンを細分化したことにより、ミニサロンが誕生し、10人未満の集まりとして気軽に集う場ができ</p>
ボランティア活動の振興		
<ul style="list-style-type: none"> ・各町ボランティア連絡協議会事務局 ・ボランティア交流会 ・ボランティアグループの活動支援 ・夏休みボランティア体験、車イス体験等 ・もしもしボランティア養成講座受講による傾聴ボランティアグループの設立 ・ボランティア相談会（6月に3回） ・学生ボランティア（ワークキャンプ）の受け入れ 	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動の活性化 ・ボランティア同士の交流を通じ、絆を深める。福祉のまちづくり、人づくりの輪を増やすことができた。 ・美山町ボランティア連絡協議会設立10周年記念行事をボランティアが主体となって計画、開催することが出来た。 ・ワークキャンプによる限界集落支援
各種団体、サークルへの支援		
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア連絡協議会、身体障害者福祉会事務局 ・各種団体の事務局 八木町難聴者の会、4町介護者家族の会、老人クラブ連合会、遺族会 他 ・各町ふくしまつり等の事務局 美山福祉のつどい実行委員会事務局 	通年	<p>各種団体・ボランティア等多数の住民と協働し、ふくしまつり等を成功させることが出来た。</p> <p>日吉町家族介護者の会「絆の会」発足により、4町に介護者家族会が設立された。</p>
広報、啓発活動		
<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの更新 ・社協だより、支所だよりの発行 ・各種福祉に関する事業や講演会などのチラシづくり ・支所パンフレットづくり ・ケーブルテレビの利用 	通年	新しい情報を、出来る限り紙面に掲載し広報した。
小地域のネットワーク活動の推進		
<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい委員・民生委員交流研修会 ・高齢者等見守りのためのチラシ配付（戸別訪問） ・地域懇談会の実施 ・小地域ふれあいネットワーク事業 ・企画小委員会の実施 振興会を土台にした地域福祉推進の基礎組織づくり支援 	通年 毎月15日 見守り活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい委員の意識向上、見守り活動等への取り組みが徐々に進み、各地区で地域福祉を推進するネットワークができ始めている。 ・民生児童委員とふれあい委員が協働し、孤立しがちな高齢者等の見守り活動を通して、介護予防事業等のサービスへ繋がる事例が増
福祉教育支援		

<ul style="list-style-type: none"> ・小学校における福祉教育学習の内容相談受付や調整、出張授業の実施 ・夏休みボランティア体験 ・福祉でまちづくり事業 <ul style="list-style-type: none"> ①「ここ・とも～ここで心の友達できるといいな」 ②「みんなで“たまや～”と叫んでみよう～神吉花火交流会」 ③「クリスマスパーティー～八木にサンタがやってくる～」 	<p>通年 福祉でまちづくり事業 ①8月6日、②10月14日、③12月23日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生に福祉に対する関心を持ってもらう機会になった。 ・学生ボランティアが中心となり、障がいのある人もない人も一緒に参加・交流できる様々な行事の計画・実施することで、参加者の相互の学びや気づきを得られた。 ・地域の高齢者の方と小中学生が、顔見知りとなり普段の生活でも親しくなれた。
---	--	---

7. 所属長評価 [平成20年度から改善した点、今後の展開など]

社会福祉協議会が地域福祉の推進を図るため、重要な事業であるが、一定の見直し、検討が必要と考える。今後、社会福祉協議会をはじめ、関係団体等と協議を進めながら、よりよい活動の構築をめざしていくとともに一層の支援を検討していく必要がある。

【参考】過年度の評価

■平成22年度の所属長評価

地域福祉の推進に向け、社会福祉協議会としての取り組みと行政支援について議論した。「南丹市地域福祉計画」の実効性を図るため必要な事業である。今後、南丹市社会福祉協議会の「南丹市地域福祉活動指針」と連携しながら事業を推進する。

■平成21年度の所属長評価

- ①有効性・効率性を向上させるため、担当職員と議論を重ねた点
地域福祉の推進に向け、社会福祉協議会としての取り組みと行政支援について議論した。
- ②当該事業のアピール事項
南丹市地域福祉計画の実効性を図るための事業である。
平成20年度に南丹市社会福祉協議会において、南丹市地域福祉活動指針が策定された。
- ③反省点、今後の展開・方向性等
南丹市地域福祉計画及び南丹市地域福祉活動指針の具体的事業として実施する。